

NEWS RELEASE

2017 年 3 月 7 日

救急ドローンを用いた傷病者早期発見の実証実験参加のお知らせ

当社は、一般社団法人救急医療・災害対応無人機等自動支援システム活用推進協議会(略称:EDAC、所在地:東京都文京区)が実施した、総務省「救急医療・災害対応におけるIoT利活用モデル実証事業」に関する公開実証実験に参加しました。本実験では、通報にリファレンスモデルを活用し、無人機(ドローン)を利用して迅速に現場を特定することで、傷病者に接触するまでの時間短縮に成功しました。

この実証事業は、総務省の「IoTサービス創出支援事業」の採択事業の1つであり、EDACが主催する「救急医療・災害対応におけるIoT利活用推進コンソーシアム」が、2016年7月末から実施しているもので、当社はそのメンバーとして参画しております。

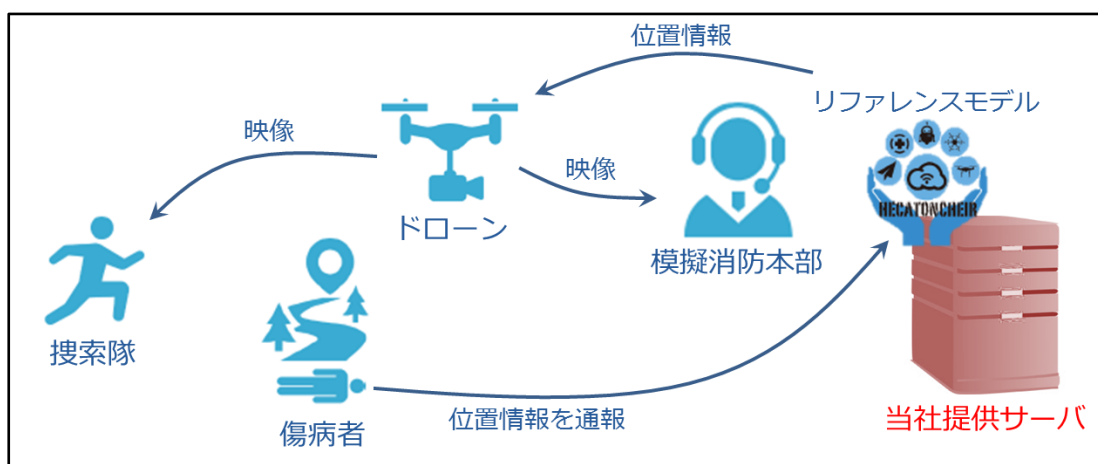
今回行われた公開実証実験の概要は以下のとおりです。

【日時】2017年1月23日(月)

【場所】九州大学伊都キャンパス(福岡市)

【実験概要】

- 山間部において、登山者が身に着けた肌着タイプのウェアラブル端末にて模擬的な心臓の異変を検知
- 衛星測位システム(GPS)を用いて得た傷病者の位置情報を、端末の自動通報システムを通じて模擬消防本部へ通報
- 位置情報に基づき現場付近へドローンが飛行、一帯の映像を模擬消防本部および捜索隊へ送信
- 模擬消防本部と捜索隊間で上空からの映像を共有し、傷病者の位置や傷病者と捜索隊との距離、傷病者までのルートを示す



【実験結果】

実証実験においては、ドローンを用いた捜索においてドローンを使わなかった場合に比べて大幅な時間短縮に成功しました。

本実証事業の成果については、2017年2月8日（水）に機械振興会館（東京都港区）にて開催された『IoTに関するシンポジウム：救急・災害時における最先端テクノロジーを活用した「命を救う」先進事例からみる2020年日本の未来』にて報告されました。

本実験で用いられたリファレンスモデルは、クラウド上に配備された当社のセキュアサーバサービスを利用して構築されております。

当社は、40年以上にわたり金融や航空、電力、ガスといった重要インフラを中心に、ソフトウェア開発やシステム運用、インフラ構築、情報セキュリティ設計・導入を行っております。豊富な経験に裏付けられた確かなノウハウを活かし、ITプラットフォームおよびセキュリティの面で継続的な支援を行ってまいります。

今後も、当社はEDACとの連携を推進し、最新のセキュリティノウハウと最適なソリューションを提供することで、最先端のIoTサービスが普及する社会において「救える命を救える社会」の実現に貢献してまいります。

お問い合わせ先

株式会社インフォメーション・ディベロプメント

担 当 部 署：iD-Cloud ソリューション部

メールアドレス：bd@idnet.co.jp

電 話 番 号：03-3262-9171

以 上